

## 人と自然との関係を学ぶ ～海編～

- 1 趣 旨 小、中学生を対象に体験を通して淡路島や徳島の豊かな自然について実感してもらうことにより、自身を取り巻く環境に興味を持ち、そして未来を創る青少年を育成する。  
また、高校生や大学生にリーダーとして活動してもらうことにより、異年齢交流の機会とするとともに、高校生や大学生に対しても、地域への愛着を感じる機会とする。  
本事業は、SDG s やE S Dといった持続可能な社会を担う青少年の育成も包含し、淡路島や徳島の「山・里・海の魅力と課題」に着目した探究型の事業を展開する。  
昨年度と同様「水」をテーマに、今年度は海を中心に活動する。淡路島や徳島の多彩な漁業、生命の源である海との関係について、漁業に関わる方や専門家の方と直接話しながら、磯観察や魚釣り等を通して、「豊かな水の必要性」を探究する。そして、より良い未来とは何かを考え、自分たちには何ができるのか考える。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 後 援 兵庫県教育委員会、淡路市教育委員会、洲本市教育委員会、南あわじ市教育委員会、徳島県教育委員会  
※当事業は公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業の助成を受けて実施
- 4 協 力 北灘漁港協同組合
- 5 日 程 令和6年8月21日（水）～25日（日）【4泊5日】
- 6 場 所 国立淡路青少年交流の家、その他（淡路島・徳島県内）
- 7 対 象 小学5～6年生、中学1～3年生 36名
- 8 参加人数 27名（内訳：小学生18名、中学生：9名）  
※申込み多数のため、抽選を行った  
※9名欠席

## 9 プログラム内容

### 8月21日(水)【1日目】

#### 【開会式】 11:00～11:30

はじめに、「SDGsとは何か」について確認した。SDGsとは「持続可能でよりよい世界を目指す国際目標」であるが、今回の事業では、「よりよい未来に向けて、今の自分にできることは何か」を考えることを目標とした。



#### 【川の生き物調べ・河川環境判定】 13:45～15:00

ひょうご環境創造協会の濱田先生をお招きして、交流の家近くを流れる本庄川で川の生き物を採取し、河川環境判定を行った。川に生息している生き物から、河川がどのような状態か判断できることに、驚いていた。「ここにエビがいるよ」と、採取した様々な生き物をそれぞれの班で情報共有するなど、活動を通して打ち解けていく様子が見られた。



#### 【生物が生息できる河川環境とは】 15:30～16:30

交流の家に戻り、濱田先生から講義を受けた。本庄川の水質についての調査結果をもとに河川について学んだ。人間にとって都合の良いように川の環境を変えたことで、特定の生き物の住む環境が失われていたり、外来生物が持ち込まれて増えたことにより、在来種が捕食され減ったりしていることを学んだ。



### 【海と生活との関わりについて・振り返り】 19:30～21:00

交流の家の職員から、「海と私たち」というテーマで講義を受けた。海とは何か、いつ、どのようにできたのか等を学んだ。また、海が私たちに与える影響や、恩恵は何か、どのような人が関わっているかを学び、海と私たちはつながっているという意識を持つことができた。

1日目の振り返りを行い、『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』について発表した。参加者からは、「川の生物を採取して、水質調査ができることは知らなかった」「外来種の及ぼす影響が大きいことに驚いた」などの感想が聞かれた。また、『今の自分に何ができるのか』では、「節水を心がける」「川にゴミを捨てない」「環境保全の取り組みに積極的に参加する」といった声が多く聞かれた。



### 8月22日(木)【2日目】

#### 【漁師からの話・ハマチの餌やり体験】 9:00～10:00

徳島県鳴門市で北灘漁港協同組合の菊川さんに講義をしていただき、養殖ハマチの餌やり体験をした。生産者の思いや、昔と今の違い、魚の大きさや年数によっての呼び名の違い等様々な話をしていただいた。普段の生活で何気なく見かけ、食べている魚について知ることができ、興味をもって何度も質問する参加者も見られた。おすすめの調理方法や、価格の変動についても知ることができ、実生活と結び付けた学習となった。



【スーパーマーケットの鮮魚コーナーの見学】 10:30～11:15

徳島県鳴門市にあるスーパーマーケットで鮮魚コーナーを見学し、魚を捌く様子や、従業員の方のお話を聞いた。実際に捌く場面を見る機会はありませんので、参加者は全員熟視していた。パック詰めから店頭に出るまでの様子も見させていただいたあとは、店の代表の方からお話をさせていただいた。地産地消を心がけていることや、売り手の思いを聞くことができた。実際にスーパーへ足を運んで、様々な商品を見て買い物をするという経験をすることで、より一層生活が豊かになり、食に対する興味があくという話を聞き、参加者は大きくうなずいていた。



【貝殻拾い・海水浴】 13:00～14:30

徳島県徳島市の小松海岸で、ケガをしないように管理団体が毎日行っている貝殻拾いの手伝いと海水浴を行った。様々な人のおかげで、砂浜をきれいに保ち、安全に海開きを行うことができていることや、海の事故や海の汚染問題について学習した。また、海は安らぎの場、アクティビティの場である事を体験することで、親しみを持つことができた。



### 【ウミホタル観察】 19:30～20:45

交流の家の近くの阿万海岸でウミホタルの観察を行った。事前に仕掛けをセットしていたが、台風接近に伴い、天候不良だったためはっきりとウミホタルを確認することは難しかった。一部の仕掛けには生物が確認され、他の班に共有することができた。



### 【振り返り】

2日目の振り返りを行い、一人ひとりが『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』を発表した。参加者からは、「漁師やスーパーの人の苦労や思いを知ることができた」「様々な人のおかげで海は保たれている」「海を汚さず綺麗にしたい」といった感想が聞かれた。『今の自分に何ができるのか』では、「ゴミ拾いやリサイクルを行う」「モノをゴミに変えない」といった声が多く聞かれた。

### 8月23日(金)【3日目】

#### 【吹上浜のゴミ拾い・れき浜で小石拾い】 9:00～11:15

白砂100選にも選ばれている「吹上浜」にてゴミ拾いを行った。拾ったごみを分別し、どのようなゴミが落ちているかを分析した。拾ったゴミの中には、海外から流れ着いたと思われるものがいくつか見られた。

その後、れき浜でフォトフレーム作りに使う小石を拾った。小松海岸や吹上浜の様子と見比べて違いに気づく参加者が多く見られた。



#### 【着衣泳・ペットボトルやライフジャケットでの浮力体験】 14:00～15:30

阿万海岸で、着衣泳とペットボトルやライフジャケットでの浮力体験を行った。まずは、Tシャツ1枚でも水に濡れば重く感じるが、服を着た状態でもコツをつかめば浮いて呼吸できることを学んだ。その後、ペットボトルだけでも浮力がある事やライフジャケットの有用性を体験することができた。



【離島でテント泊・星空観察・振り返り】 19:00～21:30

汽船に乗って、離島（沼島）へ行きテント泊を行った。自然豊かな環境の中で、綺麗な星空や、豊かな自然を守るために自分たちに何ができるかを改めて考えることができた。

3日目の振り返りを行い、一人ひとりが『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』を発表した。参加者からは、「海外からゴミが流れついていて驚いた」「人工的なゴミが多かった」「ライフジャケットがあると浮いていられるので必要だと思った」といった感想が聞かれた。『今の自分に何ができるのか』では、「海岸にゴミ箱を設置するように要望する」「他人事ではなく、自分事と考える」といった声が多く聞かれた。



8月24日（土）【4日目】

【テント撤収・沼島で釣り】 7:30～11:30

テントを撤収した後、沼島の漁港で釣りをを行った。食べられる魚や毒がある魚、リリースしたほうが良い大きさ等を事前に学習し、釣りをを行った。魚はたくさん釣れたが、小さくてリリースすることが多かった。食べるということは、命をいただくことだと改めて気づく参加者が多数見られた。また、むやみやたらに捕獲せず、リリースすることの意味を理解することができた。



### 【釣った魚を捌く・野外炊飯】 16:30～19:30

交流の家の炊飯場で、釣った魚を自ら捌き調理することで、普段よりおいしく感じると言っていた参加者が多かった。魚以外にも野外炊飯メニューの鉄板焼きを行った。仲間と協力し調理する様子が見られ、コミュニケーションを取りながら進めることができていた。残さず全て食べることができ、「食」に興味を沸かした様子であった。



### 【振り返り】

4日目の振り返りを行い、一人ひとりが『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』を発表した。「自分で釣った魚は美味しく感じた」「残さずみんなで食べよう」「海は意外と汚れていた」といった感想が聞かれた。『今の自分に何ができるのか』では、「モノを大切に長く扱う」「二酸化炭素の排出を抑える」「生物の命について考える」といった声が多く聞かれた。

### 8月25日(日)【5日目】

#### 【フォトフレーム作り】

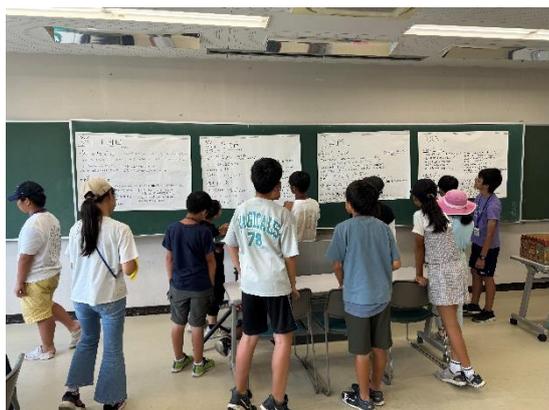
徳島の小松海岸で拾った貝殻とれき浜で拾った石を使ってフォトフレームを作った。参加者それぞれが拾ったもので作るため、様々なフォトフレームが完成した。海に落ちているもので作ったとは思えないクオリティで、参加者は満足している様子だった。



### 【5日間のまとめ・チャレンジ宣言】

5日間を通しての振り返りと、より良い未来に向けて、今後自分が継続して取り組む「チャレンジ宣言」を行った。まずは、模造紙にまとめていた、4日分の振り返りで出た意見を掲示したほか、講義で使った資料も提示し、自由に参加者が見る時間を設けた。参加者は真剣な表情で、模造紙に書かれている意見や講義資料を見返していた。

その後、チャレンジ宣言を考える場面では、4日間の内容をもとに話し合いを進め、意見交換する様子が多く見られた。最後は一人ひとりチャレンジ宣言を発表した。「残さず食べる」「モノを大切に扱う」「節水する」「リサイクルする」等の意見が多く、各家庭や学校での実生活で取り組もうとしている様子であった。



## 10 成果と課題

初日と最終日を比べると、参加者に変容が見られた。日々の振り返りでは、「環境問題に興味を持ち、今自分たちができることを考え行動したいと思うようになった」「他人事ではなく自分事として捉え、豊かな自然を守りたい」と言っている参加者が多く見られるようになった。事前・事後アンケートを比べると、漁業について知っている」「漁業を守る活動に参加したい」「自分たちの生活と海との関係を知っている」という項目において向上している参加者が多かった。理由としては、様々なフィールドへ出て活動したり、様々な方からお話を聞いたりしたことだと考える。どの活動場面でも、参加者は真剣に話を聞き積極的に質問をする姿が見られた。その他、「積極的に意見を出す」「友達を応援する」といった項目において向上が見られた。「失敗しても大丈夫」といった声掛けや、仲間と協力して取り組む姿が多く見られ、活動に取り組むための良い雰囲気作りができていたからだと考える。

今後の課題については、学んだことを自身が住む地域と関連付けられるかどうかであると考えている。今回はスケジュールをタイトに組みすぎていた部分もあり、全員で意見交換する場面が少なくなってしまった。振り返り用紙には良い意見が多くあったので、次回はしっかりと共有し広げられるようにスケジュールを組みたい。また、徳島県と兵庫県からの参加者がいるので、お互いの地域について考えて発表したり、SDGsに関する取り組みの特色を見つけたりする活動も取り入れたいと考える。いかに自身の取り巻く環境を踏まえながら、「今の自分にできることは何か」を考え、実践していこうという意欲を持たせられるかを考え、実施したい。